

2020.11.22 online

歴史的空間再編コンペティション2020

第9回 『学生のまち・金沢』設計グランプリ

開催日時 令和2年11月22日(日)

参加費 無料 オンライン開催となります。

9:40~10:40 二次審査ディスカッション

10:55~12:45 記念講演&トークセッション

13:45~18:00 ファイナルプレゼンテーション

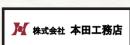
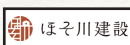
記念講演事前セミナー(11月中旬にHP及びYouTube「歴コンch」にて動画を公開します。)

主催 歴史的空間再編学生コンペ実行委員会・金沢市  
～協賛企業・団体～

審査員

腰原 幹雄氏 塚本 由晴氏 林野 紀子氏  
長谷川 豪氏 宮下 智裕氏  
松田 法子氏 松田 達氏

司会



(一社) 石川県建築士事務所協会 (株) 五井建築研究所 (公社) 日本建築家協会北陸支部 (株) ハヤシ創建 松井建設 (株) ヨシダ宣伝 (株)

## 木の文化都市金沢とは？

金沢には古くから残るものや、現代になって新しく建てられた木造建築が多く存在しています。今回記念講演をされる腰原先生が構造設計をされた、日本初の木造ビル「エムビル」もそのうちの一つです。金沢に来られない皆様の代わりに、私たちSNOUが**金沢の木造建築**を紹介します。

戦災や、大きな災害を免れた金沢には、加賀藩政期から現代にいたるまで、多くの木造建築が残っています。この金沢の木の文化はどのように生まれ、発展していったのかを**加賀藩のテリトリー**の観点から調査しました。

この2本の動画を事前知識として、当日の記念講演前に視聴してもらうことで、先生方の講演について理解を深めることができます。また、木の文化について自分なりの解釈が生まれると幸いです。

## 記念講演&トークセッション概要

日本は古くから木と密接に関わり、木とともに歩んできた文化を持っています。

しかし、都市部では近代化によって、不燃化を目的とした開発が急速に進み、S造やRC造の建物が主流となってしまったため、木造建築物が減少の一途をたどっています。

一方で、金沢では、戦災や大きな災害を受けなかったこともあり、ひがし茶屋街や、長町武家屋敷跡、尾張町などを中心として藩政期からの建築も含め、多くの木造建築が街の中に残っています。これらの木造建築を核として、様々な木の文化を継承するとともに、近年では木造の新しい可能性への試みも見られ始めています。

また現在、森林の多面的機能の発揮や山村等の地域経済の活性化を通じた持続的な森林の保全に、人工林資源を中心とする国産材の需要拡大が必要だと考えられています。「カーボンニュートラル」という木材の特徴を生かした地球温暖化防止及び循環型社会の形成への貢献も強調されています。

日々変化していく現代社会において、木の文化や木の持つ可能性が今後の建築物とどのように関わり、新たな都市空間を豊かなものへと変えていけるかについて考えていきます。

### 【質疑応答について】

記念講演後、講演に対する質疑応答を行います。

当日11:50までに「#歴コン2020」をつけてTwitterに質問を投稿してください。

その中から、モデレーターよりゲスト審査員の方々に質問させていただきます。

## アーカイブ展

【展示場所】 金沢駅地下広場ライトコート

【展示期間】 11月9日(月)～11月22日(日)

学生団体SNOUの紹介や、歴史的空間再編コンペティションの過去の優秀作品および石川ゆかりの作品のアーカイブ展を開催します。

大会当日、YouTube「歴コンch」にて配信



YouTube  
歴コンch



歴史的空間再編  
コンペティション  
HP



Twitter

Student Network Originated at Hokuriku Union

本コンペは、金沢を盛り上げるべく成立した、北陸地方で建築・デザインを学ぶ学生によって構成された学生団体が運営しています。

